

## 人文学部教員研究業績一覧（2023.1.1-12.31）

### Academic Achievements in 2023: Faculty of Arts

凡例：

氏名

- ①著書
- ②論文・研究ノート
- ③翻訳
- ④芸術創作
- ⑤書評・随筆
- ⑥学会・研究会等での報告
- ⑦その他

金井 直

- ② 「ジルベルト・ゾリオ―言葉の開くこと、言葉を開くこと―」（『梓と波』 展覧会図録，豊田市美術館，pp.21-25）[単著]
- ③ 「ウンベルト・バッターニ インタビュー」，ルカ・マッシモ・バルベーロ「イタリアのラボラトリー」，ヴァレンティーノ・カトリカラ「言語から言語活動へ。外交形式としての芸術」（『イタリア現代美術展 ファルネジーナ・コレクション』 展覧会図録，イタリア文化会館，pp.32-57）[単独訳]
- ⑦ 1）講演「ヴィジョンとしてのファルネジーナコレクション」（3月31日，イタリア文化会館）[単独] 2）対談「金井直×鈴木理策 彫刻と写真のこだま」（8月12日，B & B，東京） 3）対談「彫刻と写真について 金井直×小林且典」（9月24日，PURPLE，京都）[共同] 4）トーク「水をつむぐ いとなみ オープニングトーク アートの話」（9月30日，あさひ AIR 交流棟，大町市）[共同] 5）講演「解れる美術史 彫刻をめぐる，彫刻をめぐるながら」（青山学院大学比較芸術学会，10月7日，青山学院大学）[単独] 6）シンポジウム「地球の今，美術館の明日～持続可能な未来をめざして～」（信州アーツ・クライメート・キャンプ，11月23日，長野県立美術館）[共同] 7）鼎談「廣瀬智央 みかんの旅 アーティストトーク」（11月26日，長野県立美術館）[共同] 8）対談掲載「5つのキーワードで解き明かす デ・キリコの魅力」（『美術の窓』12月号，生活の友社，pp.30-37）[共同]

北村明子

- ② 「踏み足のドラマを求めて」―「拠点の視点」―『京都造形芸術大学 共同利用・共同研究拠点「アニュアルレポート」』2021年度 vol.9, p 1), [単著] 2023年3月30日
- ④ 1) Xstream project 1 Soul Hunter 2023年11月3日～5日，シアタートラム，公益財団法人せたがや文化財団 世田谷パブリックシアター後援，アーツカウンシル東京 [東京芸術

文化創造発信助成], 公益財団法人朝日新聞文化財団助成事業 [演出・振付・構成] 2) Echoes of Calling -rainbow after- 2023年3月10日~12日, 東京芸術劇場シアターイースト, アイルランド大使館, 駐日ウズベキスタン共和国大使館後援, 文化庁文化芸術振興費補助金, アーツカウンシル東京, Culture Ireland 助成事業 [演出・振付・構成]

⑥地の伝承・生活文化を横断し, 身体性を未来へと拓く国際共同制作—東南・南・中央アジア, アイルランド, 日本—東京芸術文化創造発信助成【長期助成】活動報告会 第16回, 2023年12月12日, アーツカウンシル東京 5階会議室, 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

#### 篠原成彦

②「相互作用説とエネルギー保存則」『中部哲学会年報』53, pp.1-14 [単著]

⑦1) 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C) 課題番号23K00028 (2023-2025)「現代における相互作用的二元論の可能性に関する検討」を研究代表者として実施 2) 中部哲学会2023年大会シンポジウム「創造性とは何か〜芸術, 科学, 哲学」(9月9日, 於・石川県政記念しいのき迎賓館), コーディネーター

#### 濱崎友絵

①1) 「「アジュ」を歌え——トルコにおけるアラベスクの誕生と展開」, 伊東信宏編 『東欧演歌の地政学: ポップフォークが〈国民〉を創る』, 第6章, pp.200-231, アルテスパブリッシング [単著], 2) 「地域ごとの音楽 (トルコ)」, コラム「トルコのマイノリティと音楽」, イスラーム文化事典編集委員会編 『イスラーム文化事典』 pp.370-371, p.380, 丸善出版 [単著]

②「トルコ共和国と民俗音楽」, シンポジウム論集『シンポジウム シリーズ《共生の未来》第2弾 クルド, 故郷に響け 我が魂のルフラン』(ワタン研究プロジェクト), pp.10-15. [単著]

⑥1) “Imagining Other Worlds through Music: The Reception of Uskudara in Postwar Japan”, International Symposium “The Formation of the Relationship between Modern Japan and the Islamic World,” December 9, 2023, TOYO University [単独 (招待)], 2) 「御柱祭の「木遣り」——関わりの構造をめぐって——」東洋音楽学会第74回大会, 京都教育大学, 2023年11月19日 [共同 (濱崎友絵, 辻竜平, 茅野恒秀, 相澤真一)], 3) 「記憶の継承と再構成——大学における授業実践から考える——」, シンポジウム「文化芸術資源の活用のためのアーカイブズ構築——ケーススタディにみる諸課題と資料活用の可能性——」東洋音楽学会第74回大会, 京都教育大学, 2023年11月19日 [シンポジスト (招待)], 4) 「地域社会における御柱祭の担いの構造——御柱祭への計量的アプローチ」第96回日本社会学会大会, 立正大学, 2023年10月8日 [共同 (茅野恒秀, 辻竜平, 相澤真一, 濱崎友絵)], 5) 「御柱祭への参加を促すソーシャル・キャピタルの効果——御柱祭への計量的アプローチ」第96回日本社会学会大会, 立正大学, 2023年10月8日 [共同 (辻竜平, 茅野恒秀, 相澤真一, 濱崎友絵)], 6) 「御柱祭の役職の規定要因から見る文化資本と政治——御柱祭への計量的アプローチ」第96回日本社会学会大会, 立正大学, 2023年10月8日 [共同 (相澤真

一, 辻 竜平, 茅野恒秀, 濱崎友絵)], 7) “Sing Your Açı: The Birth and Development of Arabesk in Turkey,” Musicology Colloquium “Between Pop and Folk,” Osaka University, Feb.23, 2023. [単独]

⑦ 1) 科学研究費基盤研究(C)「ドイツにおけるトルコ系移民の音楽伝承メカニズム」(課題番号:19K00130) 研究代表者, 2) 科学研究費基盤研究(C)「本伝統文化の継承者: その社会階級・社会階層と地域社会での社会関係資本に着目して」(課題番号:20K02149) 研究分担者, 3) 『音楽大事典』(平凡社)改訂版編集委員(継続), 4) 『音楽史事典』(丸善出版)編集委員, 5) 東洋音楽学会東日本支部委員, 6) セイジ・オザワ 松本フェスティバル実行委員(継続), 7) 一般財団法人松本市芸術文化振興財団評議委員(継続)

早坂俊廣

③ 1) 陽明後学会語研討会「韓夢鵬『新安理學先覺會言』訳注 其の二」(『白山中国学』通巻29号 pp.21-40) [共著], 2) 陽明後学会語研討会「韓夢鵬『新安理學先覺會言』訳注 其の三」(『白山中国学』通巻29号 pp.41-61) [共著], 3) 呉震「陽明後学の研究一回顧と展望」(『信州大学人文科学論集』第11号第1冊, pp.1-11) [単独訳]

⑥ 「周汝登の新安行」(2023陽明心学大会, 10月31日, 中国浙江省紹興市紹興飯店) [単独]

三谷尚澄

② 1) 「「念慮を透脱する語句」と「メタファー」——「論理空間の外部」に位置する言説をめぐる混交哲学の試み」, 『未来哲学』第5巻, 2023年1月25日, pp.231-261 [単著/招待論文] 2) 「山はいつでも歩いている——「プラグマティストの形態における表出主義」と道元」, 『比較思想研究』第49号, pp.11-18, 2023年3月31日 [単著/招待論文]

⑥ 「いま(さら)倫理学(なんか)に何ができる(というの)か? 『下級哲学』の社会的機能をめぐるいくつかの考察」, 関西倫理学会2023年度大会シンポジウム「ELSIと倫理学」提題発表, 2023年10月29日, 龍谷大学 [単独/招待講演]

⑦ 1) 科学研究費補助金(基盤研究C)「表出主義的プラグマティズムの哲学的可能性/セラーズ・ブランダム・プライスを中心に」, 研究代表者 2) 科学研究費補助金(基盤研究C)「「できなさ」の比較哲学: バルネラビリティ思潮と融通念仏思想」研究分担者 3) 日本学術振興会「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」(学術知共創プログラム)「よりよいスマート WE を目指して——東アジア人文社会知から価値多層社会へ」研究分担者

護山真也

① Hiroko Matsuoka, Shinya Moriyama, and Tyler Neill (eds.), *To the Heart of Truth: Felicitation Volume for Eli Franco on the Occasion of His Seventieth Birthday*. 2 vols. Vienna: Arbeitskreis für Tibetische und Buddhistische Studien Universität Wien, 2023. [編著]

② 1) 「「色即是空」のアポリアー鳩摩羅什と玄奘による『般若心経』の翻訳をめぐる」『未来哲学』5, pp.57-70 [単著] 2) Prajñākaragupta on Yogic Perception and the

Buddha's Omniscience: A Critical Edition and an Annotated Translation of the *Pramāṇavārttikālaṅkāra* ad *Pramāṇavārttika* III 281-286, *Prajñākaragupta Studies* 3, pp. 101-148 [単著] 3) 「ジュニャーナシュリーミトラ著『ヨーガ行者の確定』和訳研究(下)」『南アジア古典学』18, pp.41-70 [単著] 4) The Reliability of Yogic Perception for Dharmakīrti, Prajñākaragupta and Jñānaśrīmitra, Hiroko Matsuoka, Shinya Moriyama, and Tyler Neill (eds.), *To the Heart of Truth: Felicitation Volume for Eli Franco on the Occasion of His Seventieth Birthday*. Vol. 2. Vienna: Arbeitskreis für Tibetische und Buddhistische Studien Universität Wien, pp. 565-590 [単著] 5) Prajñākaragupta on *sattvam upalabdhir eva* or an Indian version of “*esse est percipi*,” Vincent Eltschinger, Jowita Kramer, Parimal Patil, Chizuko Yoshimizu (eds.), *Burlesque of the Philosophers. Indian and Buddhist Studies in Memory of Helmut Krasser*. Bochum/Freiburg: project verlag, pp. 447-469 [単著]

⑤ 「討議：世界哲学における翻訳の問題」（納富信留，護山真也，小村優太，齋藤直子，阿部賢一）『未来哲学』5, pp. 137-159 [共著]

⑥ 1) 「普遍的思想史の夢の続きへ——仏教論理学研究の視点から」（比較思想学会創立50周年記念大会，2023年7月2日，大正大学）[単独] 2) “A Materialist View of Cognition as Capacity and Its Critique by Dharmakīrti and Prajñākaragupta” (The Second International Workshop on the Religious Philosophy of Prajñākaragupta and Yamāri, 2023年9月16日，Institut für Kultur-und Geistesgeschichte Asiens der Österreichischen Akademie der Wissenschaften) 3) 「仏教認識論の世界」（武蔵野大学仏教文化研究所公開講座「仏教と哲学」第4回，2023年10月14日，武蔵野大学）[単独] 4) 「シンポジウム『普遍的思想史の夢の続きへ——中村元の比較思想研究の回顧と展望』をふりかえって」（比較思想学会2023年度11月東京例会，2023年11月18日，中央大学市ヶ谷田町キャンパス，ハイフレックス開催）[単独] 5) 「縁起説と未来原因説——ブッダとプラジュニャーカラグプタの因果論」（大正大学総合仏教研究所公開講座，2023年11月24日，大正大学）

⑦ 「仏教思想入門」（NHK文化センター松本教室講師，2023年4月21日，5月19日，6月16日，7月21日，10月20日，11月17日，12月15日，NHKカルチャー松本教室）

菊池 聡

① 1) 『より良い思考の技法 —クリティカル・シンキングへの招待—』放送大学教育振興会 全310頁 [編著] 2) 『サブカルチャーの心理学2』福村出版，全270頁（第9章，pp.194-221.）[共著]

② 1) 「オンライン授業での論述テキストによる学習者特性の推定に関する一検討」（『電子情報通信学会技術研究報告 IEICE Technical Report』, 123(84), 1-4.）[共著] 2) “Effectiveness of a “Nudge” for Online Discussion Participation about Attitude toward Essay Writing” (Methodologies and Intelligent Systems for Technology Enhanced Learning, 13th International Conference, 769, 174-181, DOI: 10.1007/978-3-031-42134-1\_17) [共著] 3) “Feasibility of Prediction of Student’s Characteristics using Tests of Essays Written during a Fully Online Course” (27th International Conference Information

- Visualization (IV), 204-209, DOI: 10.1109/IV60283.2023.00044) [共著] 4) “Characteristics Promoted in Order to Develop Student’s Critical Thinking Disposition in Online Discussions During a Fully Online Course” (European Conference on e-Learning, 22(1), 212-218, DOI: 10.34190/ecel.22.1.1777 [共著] 5) 「人はなぜ陰謀論を信じてしまうのか～パンデミックと陰謀論をめぐる心理学」(『外来小児科』, 26(3), 230-237.) [単著]
- ⑥ 1) 「オンライン討論参加頻度による批判的思考態度や防災意識の育成への影響」(日本教育心理学会第65回総会, 8月10日, オンライン) [共同] 2) 「批判的思考は失敗傾向を抑制するのか」(日本教育心理学会第65回総会, 8月10日, オンライン) [共同] 3) 「心身ともに健康であるための心理学 ～ AI の時代に必要な力～」(はこだて国際科学祭2023サイエンスダイアログ, 8月19日, シエスタハコダテ) [共同] 4) 「陰謀論と批判的思考, 疑似科学信奉の関連性」(日本心理学会第87回大会, 9月15日, 神戸国際会議場) [単独] 5) 「誤情報への挑戦 心理プロセスの理解にもとづいた介入の可能性」(日本心理学会第87回大会シンポジウム, 9月15日, 神戸国際会議場) [共同]
- ⑦ 1) 「経営に役立つ心理学からの思考法」(協同組合ハイコープ新春経営セミナー講師, 2月22日, 岡谷ライフプラザマリオ) [単独] 2) 「防災減災のための心理学」(松本地域振興局・防災啓発研修講師, 3月5日, 松本市合同庁舎) [単独] 3) 「ポジティブに生きるための心理学」(信州大学出前講座: 飯田市民生児童委員協議会総会講師, 5月12日, 飯田県文化センター) [単独] 4) 「防災減災のための心の科学」(駒ヶ根市防災パワーアップ講座講師, 5月19日, 赤穂公民館) [単独] 5) 「なぜ疑似科学を信じてしまうのか」(長野県飯山高等学校 SSH 講演会, 6月8日, 長野県立飯山高等学校) [単独] 6) 「だまされる心の心理学」(信州大学出前講座: 飯田市伊賀良公民館かさまつ大学講師, 飯田市伊賀良公民館, 6月22日) [単独] 7) 「ゼロ災害のための心の科学」(長野三菱電機販売安全大会講師, 7月28日, キッセイ文化ホール) [単独] 8) 「ポジティブに生きるための心理学」(信州大学出前講座: 令和5年度 長野市北部中学校区 教育懇談会講師, 8月3日, 長野市浅川公民館) [単独] 9) 「ポジティブに生きるための心理学」(信州大学出前講座: 安曇地区養護研究会講師, 8月4日, 安曇野市穂高交流学習センター「みらい」) [単独] 10) 「防災減災のための心の科学」(信州大学出前講座: 長野市朝陽地区住民自治協議会防災講座講師, 9月5日, 長野市朝陽支所) [単独] 11) 「災害×心理学 いざという時に逃げる勇気を」(健康危機管理対策セミナー: 日糖協糖尿病認定医取得/登録歯科医/千葉県糖尿病療養指導士・支援士講習会講師, 9月19日, オンライン) [単独] 12) 「よりよく考える力を身につけるために クリティカル・シンキング入門」(諏訪清陵高等学校附属中学校2年生特別授業, 11月9日, 諏訪清陵高等学校附属中学) [単独] 13) 「ポジティブに生きるための心理学」(信州大学出前講座: 松本市立清水中学校保健委員会「心の健康」集会講師, 12月18日, 松本市立清水中学校) [単独]

佐藤広英

- ① 1) 『改訂版たのしく学べる最新発達心理学』図書文化, 全270頁(第13章情報リテラシーの発達 (pp.238-252) を執筆) [共著] 2) 『心理調査と心理測定尺度』サイエンス社, 全320頁(第6章ウェブ調査の実際 (pp.103-120) を執筆) [共著]

- ②1) Construction of a support tool for Japanese user reading of privacy policies and assessment of its user impact. IEICE TRANSACTIONS on Information and Systems, E106-D(5), 856-867. [共著] 2) 「ヘルスケアデータを提供する場面におけるプライバシーに関する不安の整理」, 『信州大学人文科学論集』10(2), pp.1-10. [共著] 3) 「プライバシー意識尺度の年齢の異なる集団間での測定不変性の検討：若年者と高齢者のデータを用いて」, 『愛知学院大学総合政策研究』25(2), pp.13-19. [共著] 4) 「プライバシー意識と自己愛傾向の関連」, 『パーソナリティ研究』32(2), pp.69-71. [共著] 5) 「これからの時代に求められる資質・能力を育成するための道徳科学学習指導の研究：「自立」に焦点を当てて」, 『調査研究シリーズ No.89 (日本教材文化研究財団)』 [共著]
- ⑥1) 「ヘルスケアアプリを利用するユーザの特徴に関する調査：利用動機とプライバシー懸念の観点から」(セキュリティサマーサミット2023 (SSS2023), 北海道自治労会館 7月24日) [共同] 2) 「潜在連合テストを用いたスマートフォン依存傾向の評価(2)：Personalized IAT と Wanting IAT を用いた検討」(日本教育心理学会第65回総会, オンライン, 8月10日-9月10日) [共同] 3) 「自尊心と安心さがツイートとフォロワーからの受容的返信が感情反応に及ぼす影響：自己本位な安心さがツイートを気遣われるほど, 低自尊心者は不安になる」(日本社会心理学会第64回大会, 上智大学, 9月7日) [共同] 4) 「情報プライバシーとヘルスケアアプリの利用動機との関連」(日本パーソナリティ心理学会第32回大会, 金沢歌劇座, 9月10日) [共同] 5) 「Twitter 上での有名人の私生活に関する情報公開可能性とプライバシー意識との関連：有名人に対する態度を操作した検討」(日本パーソナリティ心理学会第32回大会, 金沢歌劇座, 9月9日) [共同] 6) 「インターネット上における情報プライバシーの研究」(日本心理学会第87回大会公募シンポジウム「「隠す」心理を科学する：インターネット上での「隠す」心理」, オンライン, 9月15日~17日) [単独] 7) 「潜在連合テストを用いたスマートフォン依存傾向の評価(3)：一般参加者を対象としたウェブ実験による検討」(日本心理学会第87回大会, 神戸国際会議場, 9月16日) [共同] 8) 「自尊心と安心さがし投稿とフォロワーからの受容的返信が感情反応に及ぼす影響：Instagram における安心さがし投稿への気遣いが, 低自尊心者を不安にさせる」(日本心理学会第87回大会, 神戸国際会議場, 9月16日) [共同]
- ⑦1) 国立研究開発法人情報通信研究機構サイバーセキュリティ研究所セキュリティ基盤研究室・招へい専門員 2) 日本心理学会・教育研究委員会委員 3) 日本老年社会科学会・査読委員 4) WebLab 研究会・メディア・情報・コミュニケーション研究編集委員 5) 「潜在連合テストによるスマートフォン依存リスク検出の試み」(科学研究費補助金基盤研究(C)研究代表者) 6) 一般社団法人日本自動車連盟長野支部との共同研究「長野県をフィールドとした着地型観光プランの作成と情報発信」 7) 花王株式会社感覚科学研究所との共同研究「育児ストレス測定の潜在連合テスト (IAT) への適用性検証」 8) 「情報メディアの心理学：ゲームの心理的影響」(信州大学出前講座・長野市立豊野中学校, 7月11日) 9) 「長野県をフィールドとした観光 PR 動画の作成と情報発信」(2023年度 JAF 長野支部会員優待施設連絡会 シャトレゼホテル長野, 11月29日)

## 茅野恒秀

- ①茅野恒秀・青木聡子編『地域社会はエネルギーとどう向き合ってきたのか（シリーズ 環境社会学講座2）』（全276頁，序章「環境社会学の視点からどのようにエネルギー問題をとらえることができるのか」および第4章「原子力半島」はいかにして形成されたか：下北半島・六ヶ所村の地域開発史と現在」を執筆）新泉社〔共編〕
- ②1)「山林開発を伴うソーラー開発の現状と問題点」（『林業経済』75(10):8-9)〔単著〕  
2)「事故由来放射性物質汚染廃棄物と除去土壌の再生利用：原子力政策と環境政策の複合問題として」（『環境と公害』53(1):3-8)〔単著〕
- ⑤1) 書評「藤田研二郎著『環境ガバナンスとNGOの社会学』（『社会学評論』74(1):177-178) 2) 環境社会学会編『環境社会学事典』（全718頁，第3章「日本における環境社会学のルーツ」・第16章「環境社会学と地域づくり」・第17章「政策研究と実践」の編集担当および中項目「環境と社会の関係認識」「地域開発の研究系譜と環境問題」「内発的発展論の展開」「トランジション・マネジメントと環境制御システム」「スキルとしての環境社会学」を執筆)
- ⑥1)「再生可能エネルギーの社会的受容と環境保全：エネルギー転換は環境アセスのありようをどう変えうるのか」（9月9日，第38回日本環境会議仙台大会シンポジウム，東北大学）〔単独〕 2)「地域社会における御柱祭の担いの構造：御柱祭への計量的アプローチ(1)」（10月8日，第96回日本社会学会大会，立正大学）〔共同〕 3)「地域のカーボンニュートラルを実現するための大学の役割：信州大学の事例」（11月1日，環境情報科学センター第155回環境サロン，オンライン）〔単独〕
- ⑦1) 講演「くらしふと信州がめざすもの」（1月13日，「くらしふと信州」（長野県ゼロカーボン社会共創プラットフォーム）拠点開所式，長野市） 2) コメンテーター「「上田市の温暖化計画」みんなで読んでパブコメを書く会」（1月17日，上田ビジョン研究会，オンライン） 3) 基調講演「脱炭素社会の要請と地域一丸となった取り組み」（1月26日，ゼロカーボンセミナー in 上伊那，伊那市生涯学習センター） 4) 講演「除染土の再生利用：どのような問題なのか」（1月29日，除染土壌再利用実証実験について考える in 所沢，生活クラブ所沢生活館） 5) 講演「実行体制づくりの勘所：「絵に描いた餅」に終わらせない工夫」（1月31日，北海道地方環境事務所第4回地球温暖化対策実行計画（区域施策編）勉強会，オンライン） 6) 講演「地域資源を活用した持続可能な地域社会づくり」（2月1日，生活クラブぐるっと長野地域協議会，生活クラブ長野本部） 7) 基調講演「地域主導の脱炭素事業と長野県内外の事例」（2月6日，いくさかゼロカーボンフォーラム，生坂村民会館） 8) 講演「再エネ導入の壁を乗り越える体制づくり」（2月13日，環境省「はじめよう！地域再エネセミナー」（第5回），オンライン） 9) ファシリテーター「地域特性と地域ネットワークを活かしたゼロカーボンに関わる人材の育成」（2月21日，カーボンニュートラル実現に貢献する大学等コアリション 地域ゼロカーボンWG・人材育成WG合同シンポジウム，オンライン） 10) コメンテーター「原発事故から12年“除染土”再生利用の課題」（3月8日，NHKラジオ「Nらじ」） 11) コメンテーター「太陽光発電」（4月19日，長野朝日放送「abnステーション」） 12) 研修対応「松本平ゼロカーボン・コンソーシアムについて」（5月24日，愛媛県西条市議会，信州大学） 13) 講演「地域ゼロカーボンの戦略

的達成に向けて：長野県内各地の実践を例に」（6月15日，信州の快適な住まいを考える会，信州大学国際科学イノベーションセンター） 14）基調講演「脱炭素社会に向けた実践とその考え方」（7月4日，Shinshu Arts Climate Camp，信州大学） 15）講演「宮田村大久保地区に計画された廃棄物最終処分場問題の現状と今後」（7月5日，宮田の環境を守る会学習会，宮田村役場） 16）コメンテーター「太陽光開発の光と影：調査報道で分かった再生エネの実像」（7月27日，NIKKEI LIVE，オンライン） 17）基調講演「信州大学と長野県・松本市との脱炭素化に向けた連携」（8月25日，CUC 公開講座「大学の視点から考える地域のカーボンニュートラル」，千葉商科大学丸の内サテライトキャンパス） 18）基調講演「長野県と県内市町村の実行計画策定への大学の関与」（8月28日，カーボンニュートラル実現に貢献する大学等コアリション 地域ゼロカーボン WG 現地視察「大学と地域はどのように連携を推進するか：信州大学のケース」，信州大学国際科学イノベーションセンター） 19）コメント「放射性廃棄物政策と地域社会の関係から現下の問題状況をどう見るか」（8月30日，第33回原子力市民委員会，全水道会館） 20）講演「「地球沸騰」時代のエネルギー政策」（9月12日，高森町カーボンニュートラル推進連絡協議会，高森町役場） 21）講演「信州大学と長野県・松本市との脱炭素連携」（9月15日，自然エネルギー大学リーグ特別フォーラム分科会 I 「ゼロカーボン地域に向けた大学・学生・地域・企業の連携」，千葉商科大学） 22）講演「地域ぐるみの体制づくりや合意形成の壁の乗り越え方：傾向と対策とその先へ」（9月27日，環境省「はじめよう！地域再エネセミナー」（第5回），オンライン） 23）講義「脱炭素社会に向けた実行計画のポイント（宮田村の場合）」（10月5日，宮田村地球温暖化対策実行計画策定委員会，宮田村役場） 24）講義「ゼロカーボンの基礎と地球温暖化対策実行計画のポイント」（10月24日，南箕輪村地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定に関する特別委員会，南箕輪村役場） 25）研修講師「地域脱炭素化の基本を押さえる」「地域脱炭素化の手法と体制」「実行計画への落とし込みとその先を考える」（11月6日～7日，北海道庁「地方公共団体実行計画（区域施策編）勉強会」，TKP 札幌ビジネスセンター赤れんが前） 26）講義「東電福島第一原発「汚染水」問題を考える」（11月16日，第70回波田憲法学習会，波田公民館） 27）講演「「地球沸騰時代」のエネルギー政策と太陽光発電の有効性」（11月20日，令和5年度全日東京都本部第四協議会合同法定研修会，北とびあ・さくらホール） 28）講演「脱炭素まちづくりをはじめよう」（11月21日，令和5年度上高井郡町村議会議員研修会，高山村公民館） 29）講義「安曇野市里山再生計画の実践例」（11月28日，赤谷プロジェクト地域づくり WG 会議，みなかみ町観光センター） 30）講演「長野県のめざす2050ゼロカーボンと私たちの暮らし」（12月3日，ゼロカーボンミーティング in 長野，県立長野図書館）

前田 豊

- ①「小集団実験による相対的剥奪モデルの検証再考」（北田暁大・筒井淳也編『岩波講座社会学第1巻 理論・方法』pp.173-193）[共著]
- ⑤「書評：毛塚和宏著『社会科学のための統計学入門—実例からていねいに学ぶ』」（『社会と調査』31号，p.106）[単著]
- ⑥“Does Visualization of Flood Risk Impact on Land Prices?”（the 9th International



Symposium on Environmental Sociology in East Asia, 11月4-6日, 関東学院大学) [共同発表]

⑦ 1) 数理社会学会研究活動委員, 2) 松本市公民館運営審議会委員, 3) 科学研究費補助金基盤研究(C)「事前復興事業における合意形成プロセスの解明」(22K01877) 研究代表者

水原俊博

② 水原俊博, 2023, 「コロナ禍におけるデジタル消費の主観的幸福感に対する効果——テレワーク, 健康, BMIに着目して」, グローバル消費文化研究会, 『社会性・文化志向・情報テクノロジーが交錯する21世紀消費社会の調査研究』2019-2022年度科学研究費補助金成果報告書, 立教大学 (<http://survey.rikkyo.ac.jp/glocon/survey/report/PDF/glocon5-1-Mizuhara.pdf>), [単著].

⑥ 水原俊博, 2023, 「多様化する消費文化のICT / デジタル消費に対する効果——第5回消費とくらしに関する調査: その2(2)」第96回日本社会学会大会, 於: 立正大学, 2023/10/8, [単独].

⑦ 1) 経済社会学会常務理事 2) 安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員 3) グローバル消費文化研究会 研究代表

今井 章

⑥ 1) 「仮現運動観察時の脳活動におけるアルファ波脱同期の検討」第62回日本生体医工学会大会2023 (2023.5.18-20, 名古屋国際会議場(名古屋大学)) [共同] 2) “Alpha desynchronization during observation of apparent motion illusion” (The 45th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC23) 2023.7.25, Sydney) [共同] 3) 「ワーケーションには何か良いことがあるのか? (1)—心理反応からの検討—」日本心理学会第87回大会発表論文集 (2023.9.17, 神戸大学(ハイブリッド開催)) [共同] 4) 「ワーケーションには何か良いことがあるのか? (2)—生理反応からの検討—」日本心理学会第87回大会発表論文集 (2023.9.17, 神戸大学(ハイブリッド開催)) [共同] 5) 「デルブーフ錯視における円環の幅と大きさ・明るさ錯視との関連」日本基礎心理学会第42回大会発表 (2023.12.2, 豊橋技術科学大学) [共同] 6) 「自由選択課題における選択的錯覚の検討」日本基礎心理学会第42回大会発表 (2023.12.2, 豊橋技術科学大学) [共同] 7) 「アルファ波脱同期による仮現運動観察時の脳活動の検討」日本生体医工学会関東支部若手研究者発表会2023 (2023.12.9, 東京電機大学) [共同]

⑦ 1) 愛知淑徳大学集中授業講師「視覚生理学演習」(2023年8月28-8月31日, 愛知淑徳大学長久手キャンパス) [共同] 2) 新潟青陵大学集中授業講師「神経・生理心理学」(2023年9月11-9月12日, 新潟青陵大学) [単独] 3) 「リゾートワーケーションの心理・感情・生理的効果の予備検証と事業化研究」(2023年4月1日-2024年3月31日, 株式会社東急不動産R&Dセンター, 東急リゾーツ&ステイ株式会社との共同研究) [共同]

岡本卓也

⑥ 1) 岡本卓也 (2023). 地域のしがらみ—何がしがらみを感じさせ, その何が居住継続意

- 図を低めるのか—日本グループダイナミックス学会第70回大会, 高知工科大学. [単独]
- 2) 岡本卓也 (2023). ふるさとは遠きにありて思うもの? 大学生の帰郷意図と地域間系資本に対するしがらみ意識 日本社会心理学会第64回大会, 上智大学. [単独]
- 3) 岡本卓也 (2023). 歩くことの社会心理学(5)経験的サンプリング法を用いた散歩中の感情変化 日本心理学会第87回大会, 神戸国際会議場. [単独]
- ⑦ 1) 「「道」の魅力の解明: 歩く旅の心理的機能と地域資源としての「道」」(科学研究費補助金(基盤研究(B)); 研究代表者), 2) 「COVID-19に対する都市レジリエンスと心理レジリエンスの時空間分析」(挑戦的研究(萌芽); 分担研究者) 3) 日本心理学会教育研究委員会委員, 4) 日本コミュニティ心理学会研究委員会委員 5) [講演] サステイナブルツーリズムの社会心理学 第9回信州大学見本市

白井真理子

- ② 1) 「ネガティブ感情の機能的側面に関する検討」(『広島大学心理学研究』22, 41-53) [共著]
- 2) 「日本語版 BACS (Beliefs About Crying Scale) の作成」(『心理学研究』94, 170-180) [共著]
- 3) 「Cognitive Loading and Subjective Meaning of “I don’t know” Responses on Self- and Other-Emotion Inference Tasks」『Memoirs of the School of Education University of Toyama』2, 21-35) [共著]
- ⑥ 1) 「The belief about the utility of sadness」(SPSP 2022 Annual Convention, 2月23-25日, Atlanta) [共同]
- 2) 「刹那的終焉は混合感情を喚起するか?」(日本感情心理学第31回大会, 5月27日, 人間環境大学) [共同]
- 3) 「ワーケーションには何か良いことがあるのか? (1)」(日本心理学会第87回大会, 9月17日, 神戸国際会議場・神戸国際展示場) [共同]
- 4) 「ワーケーションには何か良いことがあるのか? (2)」(日本心理学会第87回大会, 9月17日, 神戸国際会議場・神戸国際展示場) [共同]

高瀬弘樹

- ② 1) 「ダンスパフォーマンス鑑賞時の眼球運動の検討」(信州大学人文科学論集, 11, 13-19.) [共著]
- 2) 「Correlating stress reduction and eye movement patterns in a world famous Kyoto Japanese garden.」(bioRxiv.) [共著]
- ⑥ 1) 「仮現運動観察時の脳活動におけるアルファ波脱同期の検討」(第62回日本生体医工学会大会, 名古屋国際会議場) [共著]
- 2) 「Alpha desynchronization during observation of apparent motion」(The 45th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, Sydney) [共著]
- 3) 「アルファ波脱同期による仮現運動観察時の脳活動の検討」(日本生体医工学会関東支部若手研究者発表会2023, 12月9日, 東京電機大学) [共著]
- ⑦ 公益社団法人才能教育研究会との共同研究「プロのヴァイオリニストの演奏は、アマチュアと何が違うのか?—プレリミナリー・スタディー—」(2018年9月1日~2024年8月31日)

松本 昇

- ② 1) Matsumoto, N., Watson, L. A., & Kuratomi, K. (2023). Schema-driven involuntary

categoric memory in depression. *Cognitive Therapy and Research*. <https://doi.org/10.1007/s10608-022-10329-6> 2) Matsumoto, N., Katahira, K., & Kawaguchi, J. (2023). Cognitive reactivity amplifies the activation and development of negative self-schema: A revised mnemonic neglect paradigm and computational modelling. *Cognitive Therapy and Research*. <https://doi.org/10.1007/s10608-022-10332-x> 3) Nihei, M., Hojo, D., Matsumoto, N., & Sawa, K. (2023). ABA, ABC, and AAB renewal effects and individual differences of learning on fear conditioning using social stimuli. *Learning and Motivation*, 84, 101935. 4) Matsumoto, N., & Hallford, D. J. (2023). Direct accessibility for overgeneral memory predicts a worse course of depression: Re-analysis of the online computerized Memory Specificity Training (c-MeST) for major depression study. *Cognition and Emotion*, 37(2), 339-351. 5) Matsumoto, N., Takahashi, Y., & Hallford, D. J. (2023). Different retrieval mechanisms of overgeneral autobiographical memory for positive and negative cues in remitted Major Depressive Disorder. *Journal of Behavior Therapy and Experimental Psychiatry*, 79, 101822. 6) 二瓶正登・松本 昇・佐藤友哉 (2023). 制止学習アプローチに対する古典的条件づけ研究からの批判的検討 心理学評論, 66(4). <https://osf.io/preprints/psyarxiv/vrj7c>. 7) 服部陽介・小林正法・松本 昇・川口 潤 (2023). マインドワンダリングに関する暗黙理論尺度日本語版の作成とその信頼性・妥当性の検討 心理学研究, 94(5), 423-433.

⑥ 1) Matsumoto, N. (2023). Meta-memory (prediction) of specific autobiographical recall: An experimental approach using a modified Autobiographical Memory Test. SARMAC XIV 2023, Nagoya (Japan 発表日: 2023/8/10) 2) Matsumoto, N., Katahira, K., & Kawaguchi, J. (2023). Cognitive reactivity amplifies the activation and development of negative self-schema. 10th World Congress of Cognitive Behavioral Therapies, Seoul (Korea 発表日: 2023/6/3) 3) 川口直也・松本 昇 (2023). 社会的場面に関する評価の操作が自己評価に及ぼす影響 日本心理学会第87回大会 (神戸 発表日: 2023/9/14) 4) 服部陽介・小林正法・松本 昇・川口 潤 (2023). マインドワンダリングに関する暗黙理論尺度日本語版の作成 日本心理学会第87回大会 (神戸 発表日: 2023/9/15) 5) 松本 昇・ローラ マーシュ (2023). 機能的な解釈の反復検索による非機能的な解釈の検索誘導性忘却 日本認知心理学会第21回大会 (東京 発表日: 2023/7/1) 6) 長井美友貴・伊藤友一・松本 昇・川口 潤 (2023). 共同でのエピソード的未来思考—予備的検討— 日本認知心理学会第21回大会 (東京 発表日: 2023/7/1) 7) 松本 昇 (2023). ネットワーク解析による精神病理の解明とその問題点 “精神疾患のカテゴリカル診断を超えた心理学的アプローチの可能性” (話題提供者) 日本心理学会第87回大会 (神戸 発表日: 2023/9/15) 8) 松本 昇 (2023). 記憶心理学と臨床心理学のコラボレーション: 記憶の修正による自己と感情の更新 (企画代表者・指定討論者) 日本心理学会第87回大会 (神戸 発表日: 2023/9/17)

⑦ 松本 昇 (2023). 世界との広がり—WCCBT2023参加記録— 認知療法 NEWS 第82号

## 大串潤児

② 1) 「歴史教科書を書く—その「いま」と前提」『歴史学研究』第1032号, 2023年2月, 26～32頁 [単著], 2) 「『国民的歴史学運動』論の切実さとは何か?」『部落問題研究』第244号, 2023年2月, 36～60頁 [単著], 3) 「戦時戦後の大衆文化・紙芝居と演芸会—地域での担い手, 民衆の欲望」『東海史学』第57号, 2023年3月, 1～15頁 [単著], 4) 『非文字資料研究センター News Letter』第49号・別冊, 2023年3月 [編著], うち「紙芝居と戦時文化論の方法: 東北・2022初夏」(3～9頁)「東海調査で「問われた」もの: 瑞浪地域調査概要報告をかねて」(19～21頁)「地域調査の総括と展望: 方法を求めて: 2022年・初夏から盛夏へ」(29～33頁)を執筆し, 全体を編集。

⑤ 1) 「新刊紹介: 荒敬・大日方悦夫・三輪泰史『1945・8・13 長野空襲の真実』(信濃毎日新聞社, 2023年)」『地方史研究』第424号, 2023年8月, 135～136頁 [単著], 2) 「書評: 長野県強制労働調査ネットワーク編『本土決戦と外国人強制労働』(高文研, 2023年)」『しんぶん赤旗』2023年11月5日付け [単著]

⑥ 1) 「浅間山演習地化反対運動・再考 70周年にあたっての論点」平和と憲法をまもる信州大学人の会第91回シンポジウム, 於・信州大学(松本), 2023年1月10日 [単独], 2) 「『歴史総合』を考える—その構想と教科書叙述の構造」愛知県歴史教育者協議会・名古屋歴史科学研究会, zoom, 2023年6月3日 [単独], 3) 「満蒙開拓青少年義勇軍論」横浜翠嵐高校日本史サマーセミナー, 於・横浜翠嵐高校, 2023年8月25日 [単独], 4) 「浅間山演習地化反対運動・再考 70周年にあたっての論点」軽井沢町歴史民俗資料館文化講座, 於・軽井沢町追分図書館, 2023年10月1日 [単独], 5) 「私たちの生きる「今」を問う?—上原良司の経験」穂高西中学校, 2023年10月30日 [単独]

⑦ [社会活動] 立教大学文学部非常勤講師(2023年4月～8月), 長野県立大学非常勤講師(2023年9月～2024年3月), 国立歴史民俗博物館展示リニューアル委員会委員, 神奈川大学常民文化研究所非文字資料研究センター客員研究員, 飯田市歴史研究所顧問研究員, 長野市立博物館協議会委員, 松本市文化財審議会委員, 「新たな長野県史編さんに関する有識者懇談会」委員(長野県教育委員会)

## 豊岡康史

① 『嘉慶維新研究: 嘉慶四(1799)年上諭訳注』, 汲古書院, 296頁 [共編著]

② 「『雷塘庵主弟子記』訳注(1)」(『環日本海研究年報』28, 80-86) [共著]

⑥ 1) 「嘉慶四年の対外姿勢—“亦た輕がるしく邊釁を挑すなかれ”」(第67回国際東方学者会議2023, 「シンポジウムⅣ ユーラシアのなかの嘉慶維新(一七九九)」日本教育会館, 2023年5月20日) [単独] ※当該シンポジウムオーガナイザーも担当。 2) 「18・19世紀長江流域の米価動向と白蓮教反乱」(第67回国際東方学者会議2023, 「シンポジウムⅣ ユーラシアのなかの嘉慶維新(一七九九)」日本教育会館, 2023年5月20日) [共同] 3) 「清朝経済・財政の展開: 18・19世紀を中心に」(明清史夏合宿2023 シンポジウム「〈大清〉の時代—満洲(マンジュ)の支配とは何だったか」東京大学本郷キャンパス, 2023年8月22日) [単独] 4) 「清朝初期史概説叙述の模索」(公開ワークショップ「清朝史再構築の基礎をさがして」新潟大学五十嵐キャンパス, 2023年11月30日) [単独]

⑦) 科学研究費補助金「清朝史の再構築：人口構造・国際関係と政策基調についての総合的研究」(基盤研究(B), 22H00701, 2022-2026年)を研究代表者として実施。

新津健一郎

② 「爨宝子碑訳注稿：雲南地域社会史論のためのノート」(『麻布中学校・高等学校紀要』11, 13-33) [単著]

⑥ 1) 「于子軒《最早的“吐蕃”》評議」(第十四届中国中古史青年学者連誼会, 2023.8.26, 復旦大学光華楼【中華人民共和国上海市】) [単独]. 2) 「李氏成漢政権の性格について」(第23回魏晋南北朝史研究大会, 2023.9.16, 東京大学本郷キャンパス国際学術総合研究棟【東京都文京区】) [単独]. 3) 「山地からみる「古代中国」——歴史の中の西南地域」(2023年度信大史学会大会, 2023.11.18, 信州大学松本キャンパス人文学部棟【長野県松本市】) [単独].

山本英二

① 1) 「徳川政権と在地権力(諸藩)」(岩下哲典・中澤克昭・竹内良男・市川尚智編『信州から考える世界史』えにし書房, pp.61-63) [単著], 2) 「信州中馬と塩の道—江戸時代の交通革命」(岩下哲典・中澤克昭・竹内良男・市川尚智編『信州から考える世界史』えにし書房, pp.71) [単著], 3) 「外国人殺傷事件(東禅寺事件)と松本藩」(岩下哲典・中澤克昭・竹内良男・市川尚智編『信州から考える世界史』えにし書房, pp.96-98) [単著]

② 1) 「由緒論をふりかえる」(『日本歴史』第900号, pp.111-116) [単著], 2) 「文献史料からみた尾張藩江戸藩邸の園芸」(『江戸遺跡研究会第35回大会 江戸の園芸 発表要旨集』江戸遺跡研究会, pp.25-28) [単著]

⑥ 1) 江戸遺跡研究会第35回大会報告「文献史料からみた尾張藩江戸藩邸の園芸」(2023年1月28日, 於東京都世田谷区・日本大学文理学部) [単独], 2) 日本史研究会12月例会中世史部会「歴史の創造・伝承の形成—史料の可能性を広げる コメント」(2023年12月10日, 於京都市左京区・京都大学吉田南構内・京都大学総合人間学部) [単独]

⑦ 1) 2022年度後期講座講師・第1～3回「時代劇から考える日本史」(愛知県名古屋市, 栄中日文化センター, 10月20日, 11月17日, 12月15日) [単独], 2) 徳川林政史研究所特任研究員, 3) 関東近世史研究会評議員, 4) 国史学会評議員, 5) 信州資料ネット代表, 6) 信大史学会会長

磯部美穂

① 『ドイツ語学への視点・ドイツ語学からの視座』同友社, 2023年3月 [共著]

⑥ “Computer-Assisted Support Strategies for Second Foreign Language Learners in Japanese Universities: A Case Study of German Learners.” X. AZCALL Conference, 11.11.2023, University of Arizona [共同]

⑦ 1) 国際オンライン講演会主催“Didaktische Potenziale von KI-Anwendung für Deutschlernende - Ressourcen und Initiativen in Österreich” 2023年10月28日 2) 公益財団法人ドイツ語学文学振興会振興会賞審査員, 2023年2月-3月

伊藤加奈子

② 「“V 过 O 来（去）”における“过”の役割とは何か？—複合方向補語“- 过来”“- 过去”と動詞目的語との語順について—」（『信州大学人文科学論集』第10号（第2冊），pp.21-37）[単著].

氏岡真士

① 『『杜騙新書』訳注稿三編』（『『杜騙新書』の発展的研究』プロジェクト、197P）[共著]  
 ② 1）「『翠屏山』與『忠義璇圖』」（『信州大学人文科学論集』第10号（第2冊）、39-51頁）[単著] 2）「『俗語解』における『水滸伝』」（『信州大学総合人間科学研究』第17号、17-32頁）[単著] 3）「『徐雨峰中丞勸語』と『徐公讞詞』」（『信州大学人文科学論集』第11号（第1冊）、21-46頁）[単著]

葛西敬之

① モルプス・アウストリアクス：オーストリア文学をめぐる16章（担当範囲：ローベルト・ヴァルザー『散歩』とトーマス・ベルンハルト『行く』——二つの歩行する散文の分岐点、381-403頁）[共著]  
 ② ローベルト・ヴァルザーの表現主義との距離——その捉え難さの一要因について（『信州大学人文科学論集』第11号（第1冊）47-58頁）[単著]  
 ⑥ Grenze schreiben. Robert Walsers feuilletonistisches Schreiben in der Kriegszeit. (Kolloquium I: An der Grenze schreiben: Feuilleton und Moderne. 8.28.2023, Shinshu University.) [単独]  
 ⑦ 日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究）「ローベルト・ヴァルザーにおける「現実」と「虚構」の位置価」（課題番号：21K12961）研究代表者

鎌田隆行

② 1）「バルザックの題名学的研究—論点整理の試み」, 信州大学『人文科学論集』第10号（第2冊），2023, p.53-70 [単著] 2）「生成論」, 小倉孝誠編『批評理論を学ぶ人のために』, 世界思想社, 2023, p.130-144 [単著] 3）「バルザック『ゴージェイサル二世』——新たな英雄の登場」, 信州大学『人文科学論集』第11号（第1冊），2023, p.59-75 [単著]  
 4）« La génétique balzacienne et la question de l'inachèvement », *L'Année balzacienne*, 2023, p.25-41 [単著]  
 ⑥ 1）「バルザックと未完の美学」, 関西バルザック研究会, 2023年3月25日, 近畿大学+オンライン [単独] 2）「バルザックの電子版エディションの現在」, 合同バルザック研究会, 2023年5月27日, 慶応義塾大学 [単独] 3）「『パンセ・主題・断片』における『十九世紀風俗研究』のプラン」, 関西バルザック研究会, 2023年12月23日, 近畿大学 [単独]  
 ⑦ 1）報告：ワークショップ「作家事典のダイナミズム」日本フランス語フランス文学会 Cahier, 31, 2023, p.19-23 [共著] 2）講演司会：柏木隆雄「語り」の妙味 —プロスペル・メリメ『カルメン』をめぐる—, 日本フランス語フランス文学会中部支部大会, 2023年12月2日, 中部大学 3）科学研究費補助金（基盤研究C）「バルザックの作品の題

名学的研究」(研究課題番号22K00464) 研究代表者(2022年度～) 4) Groupe International de Recherches Balzaciennes (国際バルザック研究会) 執行部メンバー (2008年3月～) 5) パリ第8大学出版会叢書「Manuscripts modernes」アドヴァイザリーボード委員(2014年5月～) 6) パリ・デイドロ大学ジャック・セバシユール研究センター客員研究員(2015年12月～) 7) クラシック・ガルニエ社「Revue Balzac」編集委員(2016年11月～)

#### 渋谷 豊

- ③マッコルラン「真夜中の伝統」(『マッコルラン・コレクション 真夜中の伝統/夜霧の河岸』渋谷豊・昼間賢訳 国書刊行会 p.6-183, p.361-365) [単独]  
 ⑦1) 「ワールドワイド・オブ・タカラヅカ インタビュー」(『歌劇』11月号 p.91-93) [共同] 2) 「選評」『文藝譜(長野県文芸コンクール入賞作品集)』第12輯, p.31-33 [単独]  
 3) 科学研究費補助金基盤研究(C)「近代文学における地球の表象—吉江喬松を中心に」(課題番号20K00518) 研究代表者

#### 野津 寛

- ⑤1) 「豎琴にロバールラテン語格言のお話(第1回) ラテン語は「死語」なのか?」, WEB 日本評論(2023年11月20日). 2) 「豎琴にロバールラテン語格言のお話(第2回) Asinus ad Lynam (立琴にロバ)」, WEB 日本評論(2023年12月20日).  
 ⑥1) 「Autofiction: 現代から古代へ, 古代から現代へ」(星久美子氏との共同発表), 日仏ギリシア・ローマ学会 WEB セミナー2022【第2回】(2023年6月24日). 2) “Project for a staging of the *Acharnians* in Japan” (単独), Comparative Studies of Greek Theatre and its Japanese Receptions, Oxford Classics Centre (2023年8月14日). 3) 「日本におけるギリシャ悲劇の受容: 翻訳と上演」(単独), 日本における戦後のギリシア悲劇の上演 — 東京大学ギリシア悲劇研究会から現在まで, サンクリスタル高松3階視聴覚ホール(2023年12月3日).  
 ⑦1) 日仏ギリシア・ローマ学会 WEB セミナー2023【第1回】を日仏ギリシア・ローマ学会事務局長として開催(2023年3月20日). 2) 日仏ギリシア・ローマ学会 WEB セミナー2023【第2回】を日仏ギリシア・ローマ学会事務局長として開催(2023年6月24日). 3) 信州大学人文学部 第4回 多文化交流サロン「現代における自分語り—ファクトとフィクションの関係性」の企画(2023年11月6日). 4) 日仏ギリシア・ローマ学会 WEB セミナー2023【第3回】を日仏ギリシア・ローマ学会事務局長として開催(2023年12月27日).

#### 杉野健太郎

- ①1) 杉野健太郎責任編集『アメリカ文化入門』, 新版, 三修社, 2023年5月(学術概説書, 単編著書) 2) 杉野健太郎編『映画史の論点』, ミネルヴァ書房, 2023年7月(学術研究書, 単編著書) 3) 諏訪部浩一責任編集『アメリカ文学入門』, 新版, 三修社, 2023年10月(学術概説書, 共著書)  
 ⑦ [学会役員] 日本映画学会顧問, 日本 F. スコット・フィッツジェラルド協会会長, 日本

英文学会理事・中部支部理事, サウンディングス英語英米文学会評議員・学会誌編集長

Spreadbury, Ash Leigh

- ①「認知と社会のダイナミズム—創発・伝播・規範から読み解く言語現象の諸相—」（『社会言語科学会第47回大会発表論文集』, 247-256）[共著]  
 ⑥「認知と社会の両面から見るインターネット上の表現の機能と伝播」（社会言語科学会, 2023年3月16日, 東京国際大学）[単独]

中澤光平

- ① Hiroyuki Suzuki, Kohei Nakazawa, Mitsuaki Endo（編）『Linguistic Atlas of Asia and Africa II』（Studies in Geolinguistics, Monograph Series No. 4, 日本地理言語学会, 224頁）[共編著]  
 ② 1）「南琉球与那国方言における動詞のアクセント交替の通時的考察」（『国立国語研究所論集』24, 169-194）[単著] 2）「日琉祖語アクセント体系の再建試論」（『信州大学人文科学論集』10(2), 71-91）[単著] 3）「南琉球八重山語波照間方言辞典に関する中間報告」（『言語記述論集』15, 193-358）[共著] 4）「八重山祖語の系列再建に向けた小浜方言のAB/Cの所属資料」（『アジア・アフリカ言語文化研究』106, 111-131）[共著] 5）「Regional differences in syllable fusion in Japanese dialects」（『Proceedings of the fifth International Conference on Asian Geolinguistics』, 74-85）[単著] 6）「南琉球八重山語波照間方言における無声化と母音長の解釈—条件異音の音韻化をめぐる—」（『音声研究』27(2), 48-63）[共著] 7）「Alignment in Japonic」（Chitsuko Fukushima, Satoko Shirai, Mika Fukazawa, Hiroyuki Suzuki, Mitsuaki Endo（編）『Linguistic Atlas of Asia and Africa III』, 71-77）[共著] 8）「Numeral systems in Japonic」（Chitsuko Fukushima, Satoko Shirai, Mika Fukazawa, Hiroyuki Suzuki, Mitsuaki Endo（編）『Linguistic Atlas of Asia and Africa III』, 150-155）[単著]  
 ⑤ 1）「ことばめぐり：風の名前「ヨウズ」の語源をめぐる」（『季刊誌 Yaponesian』4（あき）, 18-22）[単著] 2）「守れ方言～現場からの提言⑥ 与那国での取り組み」（『東奥日報』12月21日朝刊文化面）[単著]  
 ⑥ 1）「琉球諸語間での借用について」（第三回プロトジャポニック研究発表会, 1月21日, オンライン）[単独] 2）「京阪系アクセントの式音調の系統関係試論」（第4回ヤポネシアゲノムくうみミーティング, 3月1日, 淡路夢舞台国際会議場）[単独] 3）「Numeral Systems in Japonic」（Studies in Asian and African Geolinguistics The 6th meeting, 3月26日, アジア・アフリカ言語文化研究所）[共同] 4）「Regional Differences in Syllable Fusion in Japonic」（The Fifth International Conference on Asian Geolinguistics, 5月4日, ベトナム国家大学ハノイ校）[単独] 5）「その変化は内的要因か外的要因か：俚言に基づく判定の可能性」（JSAA-ICNTJ 2023, 9月2日, シドニー大学）[単独] 6）「南琉球与那国方言における重子音化と無気喉頭化音の音韻解釈」（第37回日本音声学会全国大会, 9月17日, 北星学園大学）[単独]  
 ⑦ 1）『『どうなんむぬい辞典』づくりから考えた言語継承と研究者の役割』（令和5年度



危機的な状況にある言語・方言サミット（与那国島大会），10月14日，与那国町立久部良小学校）基調講演 2）「協議「方言辞典とかるた作りに取り組む」」（令和5年度 危機的な状況にある言語・方言サミット（与那国島大会），10月15日，与那国町立久部良小学校）パネルディスカッション 3）「[宮古・八重山諸島のアクセント研究の新展開：その韻律単位と類型]へのコメント」（日本言語学会第167回大会 ワークショップ「宮古・八重山諸島のアクセント研究の新展開：その韻律単位と類型」，11月12日，同志社大学京田辺キャンパス）コメンテーター 4）日本学術振興会科学研究費（新学術領域研究（研究領域提案型））「北海道諸方言の歴史言語学的研究と方言形成時期の推定」（課題番号：21H00354）研究代表者（～3月） 5）日本学術振興会科学研究費（若手研究）「日本語諸方言の接触地域における系統関係の解明」（課題番号：21K12993）研究代表者 6）日本学術振興会科学研究費（基盤研究A）「日本語諸方言の形態素解析用辞書の構築と活用」（課題番号：23H00007）研究分担者（4月～） 7）2023年度信州大学日本語学夏季セミナー 主宰 8）日本地理言語学会 世話人（会計監査）（4月～）

#### 速水香織

- ① 1）『江戸の実用書 ペット・園芸・くらしの本』近衛典子，福田安典，宮本祐規子編，ペリかん社2023年5月，PP.142-153 [共著] 2）『和本図譜 江戸を究める』日本近世文学会編，文学通信2023年11月，PP.22-23, 40-41, 44-45, 50-51, 54-57, 64-67, 74-77, 90-91, 108-109 [共著]
- ② 「近世における旅行情報誌と現代との接続——“楽しむ教材化”を視野に——」（『教職研究』14号，信州大学教職支援センター，pp.87-93 [単著]）
- ⑥ 1）研究発表「On the Publication of Travel Information Magazines in Japan in the 17th and 18th Centuries」（International Conference “The Commercialization of Knowledge in Edo Period Japan-Publishers, Editors, Print products, and Their Impact on Pre-modern Cultural Life”，2023年1月14日，於ケルン大学 [単独]） 2）State of Use Classical Texts Using Public Images : An example of joint research at the National Institute of Japanese literature（The 33rd European Association of Japanese Resource Specialists 2023, 2023年9月14日，於ルーヴェンカトリック大学 [共同]）
- ⑦ 1）くわな市民大学文化課講座「『十訓抄』を読む」③（桑名市パブリックセンター，全7回，5-12月） 2）日本近世文学会広報委員副委員長（令和4年6月より継続） 3）日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究C 課題番号21K00303「近世中後期における出版メディアの文化史的研究——菊屋七郎兵衛を中心とする」研究代表者 4）日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究B 課題番号20H04433「[道]の魅力の解明：歩く旅の心理的機能と地域資源としての「道」」研究分担者 5）受託研究「古典籍画像に基づくICT活用教育プログラムの開発」研究代表者 6）宮田村文化財保存活用地域計画作成協議会委員 7）出前授業「『伊勢物語』第八段をくずし字で読む」（日本近世文学会推進事業，2023年8月1日，於長野県諏訪二葉高等学校 [単独]） 8）講演記録「江戸時代の出版文化～書肆の手に成る多様な書物の世界～」(『温故叢誌』77号，温故学会，PP.10-17 [単独])

山田健三

- ② 1) 「変体仮名」の語誌」国語語彙史研究会編『国語語彙史の研究・四十二』pp.1-34 [単著] 2) 「書記システム原理・試論：言語システムとの対応から」『人文科学論集』第11号（第1冊）pp.71-91 [単著]
- ⑥ 1) [講演] 日本語の歴史・ハ行子音の変遷（ワルシャワ大学講演（学部生向け），ポーランド，2023年5月22日） 2) [講演] 日本語の濁音の不思議（ワルシャワ大学講演（大学院生向け），ポーランド，2023年5月23日）
- ⑦ 1) 新聞記事協力：2023年5月14日「「エグい」って褒め言葉なの？ 10～20代の9割が「良い意味でも使う」と回答「ヤバイ」以来の衝撃」信濃毎日新聞デジタル 2) 名古屋大学国語国文学会査読委員：2023年6月～7月 3) 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究(C)（一般），課題番号20K00643）

渡辺匡一

- ④ 企画展示「書物で繙く登山の歴史3」（8月29日～10月1日，信州大学附属中央図書館 [制作・監修]
- ⑤ 書評「上野麻美著『室町期浄土僧 聖聡の談義と説話』」，『説話文学研究』58，pp.237-239
- ⑦ 1) 仏教文学会委員（平成22年4月～令和6年3月），2) 説話文学会委員（令和1年10月～令和5年9月），3) 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C「真言宗寺院における中・近世期の学問展開に関する基礎的研究（課題領域番号：17K02412）研究代表者，4) 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）「真言宗寺院における中・近世期の学問形態の変容に関する文献学的研究（課題領域番号：22K00291）」